

芳滝 仁 議員

いじめ問題への 指針と対策を



問 いじめが社会問題化
しはじめて約20年に
なるが、学校等における子
供社会から大人社会までい
じめは社会全体に広がって
いる。文部科学省では19
99年以降全国での学校で
のいじめによる自殺者は0
件と報告していたが、この
数カ月の間に発生した自殺
事件を見る時、その現実は
大変深刻な状態であること
を確認せずにはおれない。今、
国等で議論されている内容
を見る時、生徒や教員に対
する懲罰等理念の無い場合
当たりのなものであり本質論
にはなっていない。いじめ
の本質は差別であり排除の
理論、蔑視、暴力等、人間
性を踏みこむ行為となる。
1989年に国連において
子供の権利条約が批准され
ているが幕別町においても
人権教育に力を入れる事が
急務であると考え。一人
一人が人間としての尊厳を
自覚し他の人々の尊厳を損

なわない教育こそが生きる
力を育み正しく善悪を判断
する強い心を育てることに
なると考える。そういう視
点で年代別に具体的な教育
と対策が必要だと考える。
また、ゲームは人間の脳の
発育に影響し人間性の発育
を阻害する事が報告されて
いるので対策が必要と考え
る。最後に一年間に全国で
4万人近い自殺者がいる現
実を見る時、子供から大人
までの人権教育を具体化す
る事が急務であると考え
るかどうか。

教育長 本町のいじめに
関する記録は、平成17年度
に中学校で1件発生してお
り、その内容は「悪口を言
う」や「無視する」、「から
かい」などである。平成16
年度及び15年度の発生件数
は0件で、学校が把握した
件数は非常に少ないが、表
面化していないいじめが存
在すると思われる。平成16

年度に実施した「幕別町い
じめ問題等検討委員会」の
アンケート調査でも、「い
じめられたことがある」と
答えた子どもよりも「いじ
めたことがある」と答えた
子どもの方がはるかに少な
いことが解析されており、
いじめたという意識が加害
者の側になくても被害者側
はいじめられたと感じてい
ることが伺える。

教育委員会としても学校
との連携を強め、提言にあ
る項目の実施強化に取り組
みたい。相談体制の強化を
図るため、本町が取り組む
相談員やスクールカウンセ
ラー、教育委員会に設置し
ている相談電話など、町の
広報誌や学校便りで再度周
知する。実態の把握につい
ては、アンケートによる実
態調査を北海道教育委員会
と連携し早急に実施する。
子供の権利条例について
は、今、十分検討しており、
子供の権利について、子供
たち自身の思いをその条文
の中に反映したい。
子供のゲームに関しては、
アンケート調査で、子供た
ちのゲーム時間が長いこ

とを把握しているが学校教
育の中で、禁止、制限する
ことではない。ゲームを行
うことによる影響など、学
校だけでなく、教育委員会
が、保護者、地域に対して
情報を発信していきたい。
そういった取り組みを、
毎月19日のまくべつ教育の
日の中で行いたい。
まくべつ教育の日の取り
組みは、地域と保護者、家
庭と学校が一体となり子供

たちを育てていく考え方か
ら始めたものであり、取り
組みの中で、家庭が果たす
役割は重要な部分と認識し、
PTA連合会などと相談し
取り組みたい。
いじめは、子供たちだけ
の問題ではない。人権に対
する教育を継続して行いた
い。生涯学習という大きな
流れの中で、人権について
のテーマも取り上げたい。

○幕別町教育の日憲章

わたしたちは、自己を高め、明るく豊かな暮らしが営めるよう、毎月19日を幕別町教育の日と定め、ふれあい、響きあい、磨きあいながら、ともに伸びる教育をめざします。

- 1 あたかい家庭をめざして
 - ・家族だんらの機会をふやし、子どもの自主性と個性、やさしい心を育てます。
 - ・家族が協力して、子育てにあたります。あかるい地域をめぐして
 - ・子どもは地域の宝、まちの宝、あたたかく成長を見守ります。
 - ・子どものために、よりよい環境をつくりたい。
- 2 たのしい学校をめざして
 - ・ゆとりある教育をめざし、豊かな心をはぐくみます。
 - ・来て・見て・知って、みんなで学校づくりにつとめます。

子どもを まん中に
家庭・地域・学校が 一つに

毎月19日は まくべつ教育の日

たとえばこんなこと

学校 子どもたち 家庭

いっしょに遊ぶ・話す
いっしょに読む・食べる

幕別町教育委員会